

ウィーンアコースティック
T3G S1G

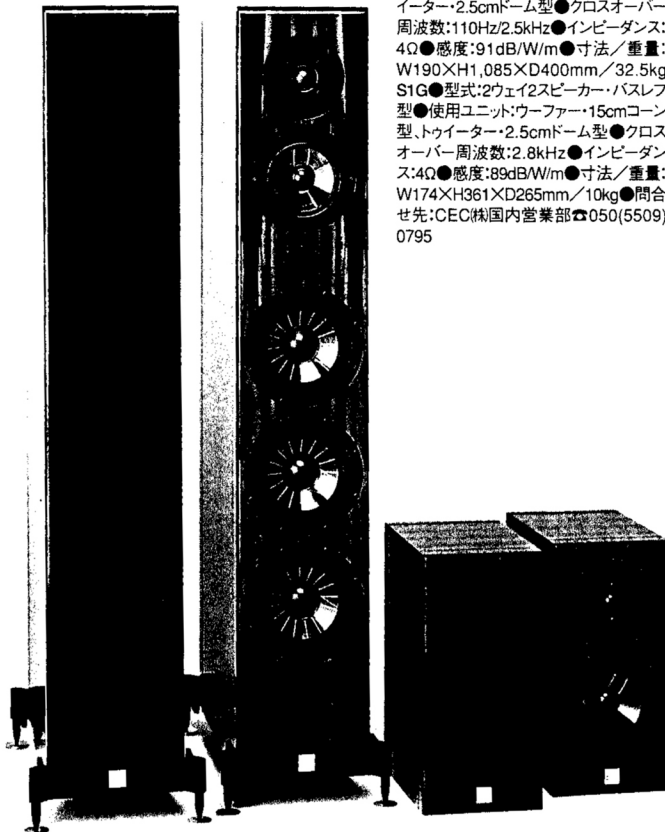
¥609,000(ペア・税込)

¥178,500(ペア・税込)

スピーカー

同社スピーカーの新シリーズ、コンサート・グランド・シリーズの2機種、S1GとT3Gが登場した。S1Gは同社のベストセラーS1のグレードアップ機で、2ウェイ・バスレフ型だが、トゥイーターの背面にポートを設けた独創的なタイプだ。何でも、低域の増強だけでなく風切り音の低減にも貢献するという。搭載ユニットは前記のバスレフ構造にマッチするよう新たに設計された2.5cmシルクドームトゥイーターと、同社独自の樹脂X3Pとポリプロピレンを混合したコーンを持つ15cmのウーファーだ。T3Gも前作T3のリファインモデル。2.5cmシルクドームトゥイーター、X3Pとポリプロピレンによる14cmのミッドレンジ、それに3基の同社製XPコーンウーファーで構成される3ウェイ・リアバスレフシステムだ。ダイナミックでしかもリアルなサウンドを目指してエンクロージャの剛性を高めたことや、ディフューザーを組み込んだグリルネットの装備などが、主な改善点に挙げられる。(篠田)

PROFILE



S1Gはエネルギーバランスのいい音だ。小型機にしてはスケール感豊かな低域、明るく繊細な高域までがスムーズにつながっているのである。こういう端正な音にありがちな、音楽の表情をこぼらせたたり窮屈にしたりするようなところはあまり感じられない。そのいっぽう、ヴォーカルが少し細身に再現され、オーケストラ本来のスケール感ももう少し出てきて欲しい気もするが、これはサイズを考えれば致し方ない。総じて、どんな音楽もソツなく聴かせる器用なスピーカーといえよう。

T3Gはパワフルで安定感に富んだ音を聴かせる。力感にあふれる割には少しも鈍重な響きにならず、タイトで歯切れのいい音が出るのが素晴らしい。また、楽器やヴォーカル音像のエッジに乗る付帯音みないなものがほとんどないクリアな描き出しにも好感が持てる。ディフューザーの効き目を確かめるためグリルを付けると、若干音場が広がったように感じられるものの、本誌試聴室では明らかな効果は認められなかった。部屋の環境や設置法によっては設計者が意図した効果が望めるかもしれない。

バランスのいいS1G、パワフルでクリアなT3G

篠田寛一



ブックシェルフ型スピーカーS1Gのトゥイーター部をみる。バスレフポートの前に25mm口径のシルクドーム型トゥイーターを配置するというユニークな構造を採用。ポートからの空気の流れがスムーズになるよう、トゥイーターの裏側にはディフューザーが取り付けられている。